

報 雜

◎人 事

從四位勳四等 津 田 誠 次
 敘勳三等授瑞寶章

(十一月一日)

從七位勳六等 安 井 雅 一
 愛媛縣防空委員會委員ヲ命ス

(十一月八日)

陸軍軍醫中佐 田 村 權 五 郎
 臺灣中央防空委員會幹事ヲ命ス

(十一月五日)

陸軍軍醫大尉 關 谷 重 幸
 賜二級俸

(十一月十日)

岡山醫科大學教授 根 岸 博
 本作四級俸下賜

(十一月二十五日)

陸軍軍醫少將 齋 藤 清
 豫備役被仰付

(十一月三十日)

海軍軍醫少佐正六位勳五等 有 馬 玄
 海軍軍醫少佐正六位勳五等 木 村 芳 雄
 任海軍軍醫中佐

岡山醫科大學助教授 濱 崎 幸 雄
 本作四級俸下賜

(十二月一日)

○中島達二君 は豫て滿洲撫順醫院に勤務し居られしが今般滿洲敦化に新設せられたる敦化醫院内科醫長に轉勤せられたり

○高橋 勳君 豫て岡山醫科大學衛生學教室に於て研究中なりし同君は今般徳山市徳山簡易保険相

談所に勤務せられたり

○松森 明君 は豫て呉市に於て開業し居られしが今般堺市寺地町に移轉開業せられたり

奥山美佐雄君逝く 君は大正 15 年岡山醫學專門學校を卒業し母校生理學教室に入り研究し岡山醫科大學に於て學位を受領し倉敷勞働科研究所神戸市立衛生試験所等に勤務し本年初めより病に罹り其職を辭し郷里に於て靜養中なりしが醫療其效を奏せず本月 25 日遂に永眠せられたりと寔に痛惜に禁へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

藤見忠彦、宮島忠の兩君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが藤見君は本年 11 月 1 日の教授會、宮島君は本年 12 月 6 日の教授會を通過し前者は本月 10 日附、後者は本月 23 日附を以て孰れも醫學博士の學位を授與せられたり其上論文及び參考論文は次の如し

藤 見 忠 彦 君

主 論 文

腐敗ニ關スル研究

其 1 鶏卵腐敗ニスル研究(岡山醫科大學歐文業府第 4 卷第 4 號ニ發表セリ)

其 2 鰯魚肉腐敗ノ研究(岡山醫科大學歐文業府第 5 卷第 3 號ニ發表セリ)

參考論文

其 1. 「アントラツェン」並ニ其ノ誘導體ヲ内服

セル家兎尿中硫酸ノ態度ニ就テ (本誌第47
年第3號ニ發表セリ)

其2. 「チスチン・フラビアナート」ニ就テ (本
誌第49年第6號ニ發表セリ)

其3. 黃磷蒸氣ノ牛肝自家融解作用ニ及ボス影
響ニ就テ (本誌第46年第3號ニ發表セリ)

其4. 肝臓「ヂストマ」病家兎血中ノ「フィブリ
ノゲン及ビ「トロンビン」質ニ就テ (藤見忠
彦, 西崎武亥共著) (本誌第46年第5號
ニ發表セリ)

其5. 犯罪者ノ血液型ニ關スル知見補遺 (重信
琢雄, 藤見忠彦共著) (行刑衛生會第7卷第
3號ニ發表セリ)

宮 島 忠 君

主 論 文

Aligochiaefa 及ビ Nematoda ノ新陳代謝ニ就
テ

1. 蚯蚓ノ新陳代謝ニ就テ (追テ本誌ニ發
表ノ豫定)
2. 蛔蟲ノ新陳代謝ニ就テ (追テ本誌ニ發
表ノ豫定)

参考論文

1. 「サントニン」ノ驅蟲作用機轉ニ就テ (追テ
本誌ニ發表ノ豫定)
2. 蓮根中ノ被酸化物質ニ關スル知見補遺 (追
テ本誌ニ發表ノ豫定)
3. 「エルゴステリン」ノ「アセチルヒヨリン」
ニ對スル拮抗作用ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ
豫定)
4. 昭和7年度神戸東山病院ニ於ケル赤痢及ビ
疫痢様疾患ノ細菌學的疫學的觀察 (追テ本誌
ニ發表ノ豫定)

獨 逸 通 信 第 8

小 田 大 吉

田中先生 6月25日

2月早々ハンプブルグからフランクフルトに参り
まして50日間程、主としてフオッス教授の教室を
見學致しました。其の當時筆を執る機会を逸しま
したのでつい延々になり、大變遅れて申譯ありま
せんが、同教室の様様を大體御報告申し上げます。

フランクフルト フオッス教授教室

フランクフルトには2月3日に参りました。か
ねて「アンメルデン」しておきました様に、4日10
時頃フオッス教授をザクセンハウゼンの市立病院
大學醫學部に訪ねますと、フオッス教授は丁度手
術室で「プリバート」の患者の處置中でしたが、す
ぐ御引見下さつて、暫らく見學するお許しを得ま
した。

先生の御紹介狀を差出しますと、緋帶交換の後
でお部屋で讀まれて『有難う、實にうまい獨逸語
です。貴下の「セフ」は實に流暢な獨逸文を書いて
居られる』と云はれ、小生が『私の先生は4,5年
前貴下を訪問されたのですが、御留守中だつたさ
うで残念がつて居られました』と申しますと『知
つて居る。自分が居たら御案内したのに』と云つ
て居られました。其の日は11時から講義がありま
すので聴きに行きますと、學生に私を紹介されて
(學生は足を「バタンバタン」とやります。これが
歡迎の意味ださうです) 講義が始りました。扁桃
腺問題ですが自分の研究に立つて仲々科學的な講
義で、フォン・アイケン教授の講義よりも餘程感
心しました。仲々氣のつく方と見えて、講義中に
ずつと前に私が報告をしました扁桃腺の中の粘液
腺のことを紹介され、扁桃腺の中に粘液腺を初め
て記載したものは日本人であつて、其の人が此所